

從軍兵士の
の殘留

沙漠の本
體

竟不便といふことを知らざるなり、故に予は唯々彼等を憐むのみ。聞くが如くれば是等住民の多くは、左宗棠が西征に應募從軍したる兵卒中、亂平くに及んで、歸るに資なく家なき者、遂に各處に殘留せしものなりと。

三、始て新疆の地を踏む

二十四日午後三時三十分出發、西行約七里、甘肅新疆兩省の境界點、即ち界牌の存在する處に達し、其れより約三里、二十五日午前一時十分シンシンヤ峽比高四五米突に到る。是に於てか予が目的地なる新疆省内の地に入るもの既に三里、前途の狀況如何なるべき乎。

肅州以西は既に才壁、即ち沙漠の地なるが、尙ほ祁連山脈の餘波各處に起伏し、河川亦尠からず。従うて耕地も多少見ることを得たりしも、一たび猩猩峽を越ゆれば、風物頓に一變して、全く沙漠の本體を現はし、草なく樹なく、滿目唯々渺茫際涯なき暗灰色の沙磧の地、遠く之を望めば一物の眼を遮る無きも、漸く近づけば沙丘處々に出沒隱現する有るのみ。

二十六日サイチヨワン沙泉(行程、十二里餘)への途上、關帝廟山(比高七八十米突西南よ)に山羊の